



堺化学工業株式会社

2023年3月期

本決算説明会

2023年5月23日

【東京証券取引所・プライム市場 証券コード：4078】

目 次

1. 当初業績見込みとの乖離について
2. トピックス
 - ＞ IAパートナーズ株式会社との業務提携について
 - ＞ 堺商事株式会社株式のTOBに関して
3. 2023年3月期本決算概要・セグメント別結果
4. 2024年3月期業績予想
5. 株主還元（配当予想）

1. 当初業績見込みと実績との乖離について

2023年3月期本決算業績概要（対当初見込比）

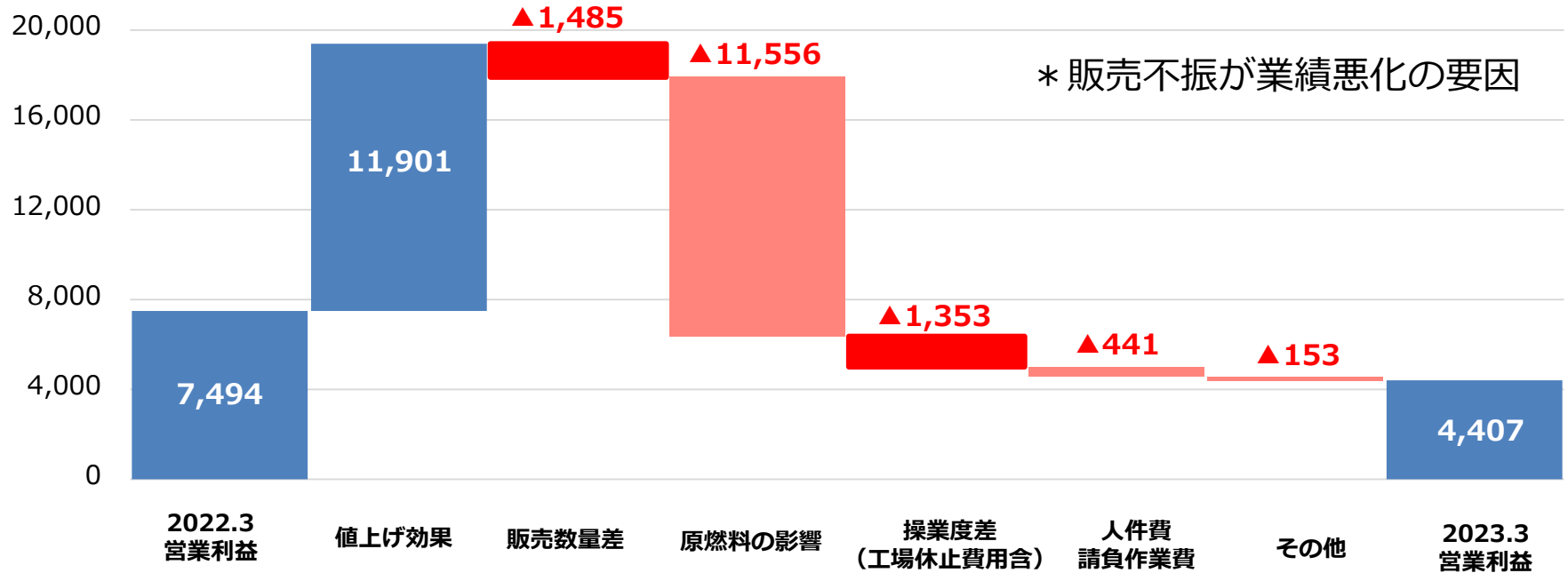
(百万円)

	① 2022.3 実績	② 2023.3 当初見込	③ 2023.3 実績	前年同期比 (③ - ①)		当初見込 - 実績対比 (③ - ②)	
売上高	80,135	85,000	83,861	3,725	4.6%	▲ 1,139	▲ 1.3%
営業利益	7,494	7,000	4,407	▲ 3,086	▲ 41.2%	▲ 2,593	▲ 37.0%

- **売上高**については、**概ね見込み通り**の結果となった。
- **営業利益**については、**当初見込みを大きく下回った**。

営業利益増減要因（対前年同期比）

(百万円)



販売単価への影響：あり(+)

販売数量への影響：あり(-)

操業度差：あり(-)

連結ベースでは、原燃料の高騰は、価格改定努力により概ね相殺できた。
※陥没価格の是正を含む

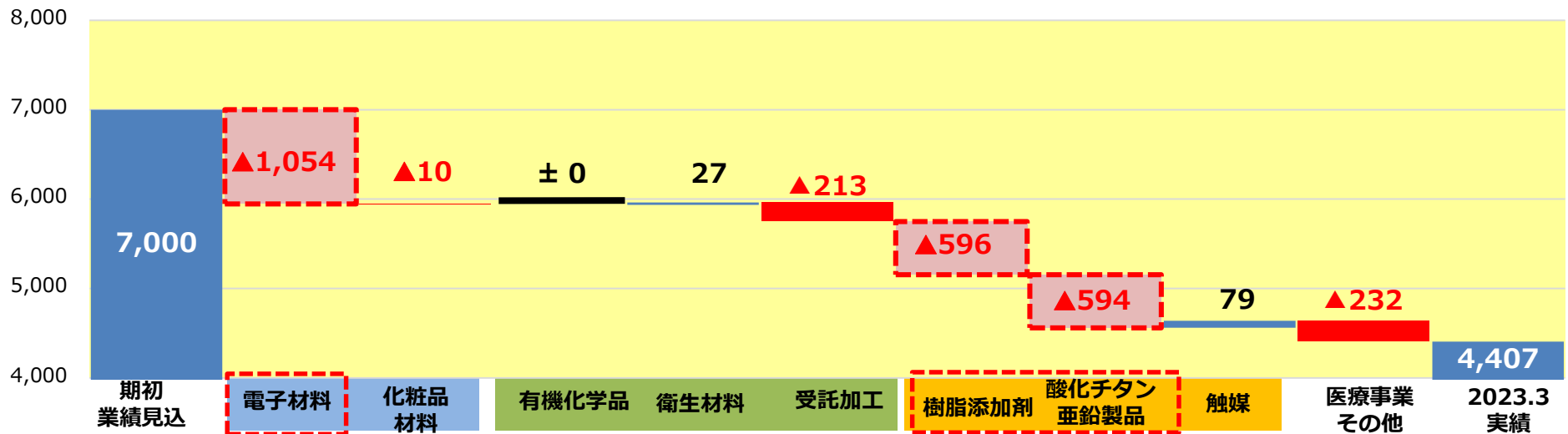
下期からの販売数量の落ち込みが、営業利益を大きく押し下げた。

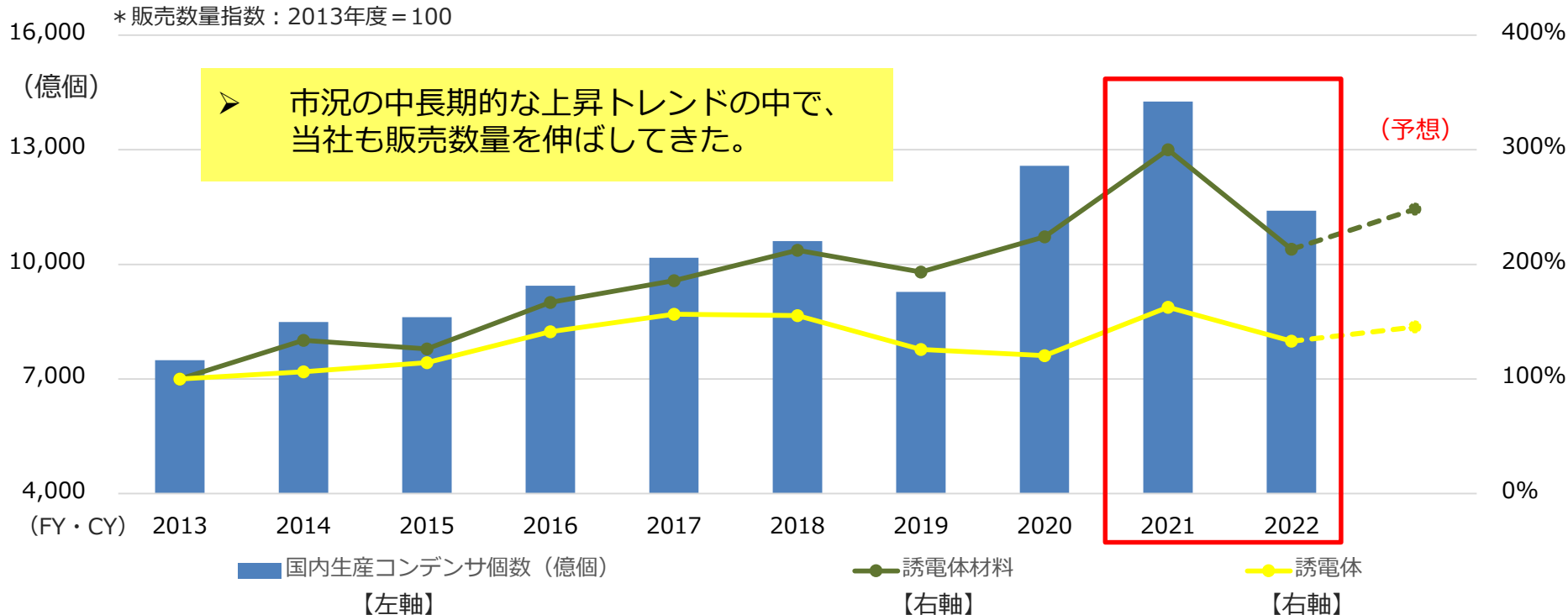
市況の低下を受け、棚卸資産圧縮に向けた生産調整を実施。下期以降、必要に応じて工場の稼働率を落としたため、その分利益を押し下げた。

サブセグメント別営業利益増減（対当初見込み比）



成長事業の電子材料・効率化検討事業の酸化チタン・亜鉛製品/樹脂添加剤で、大きく減益となった。



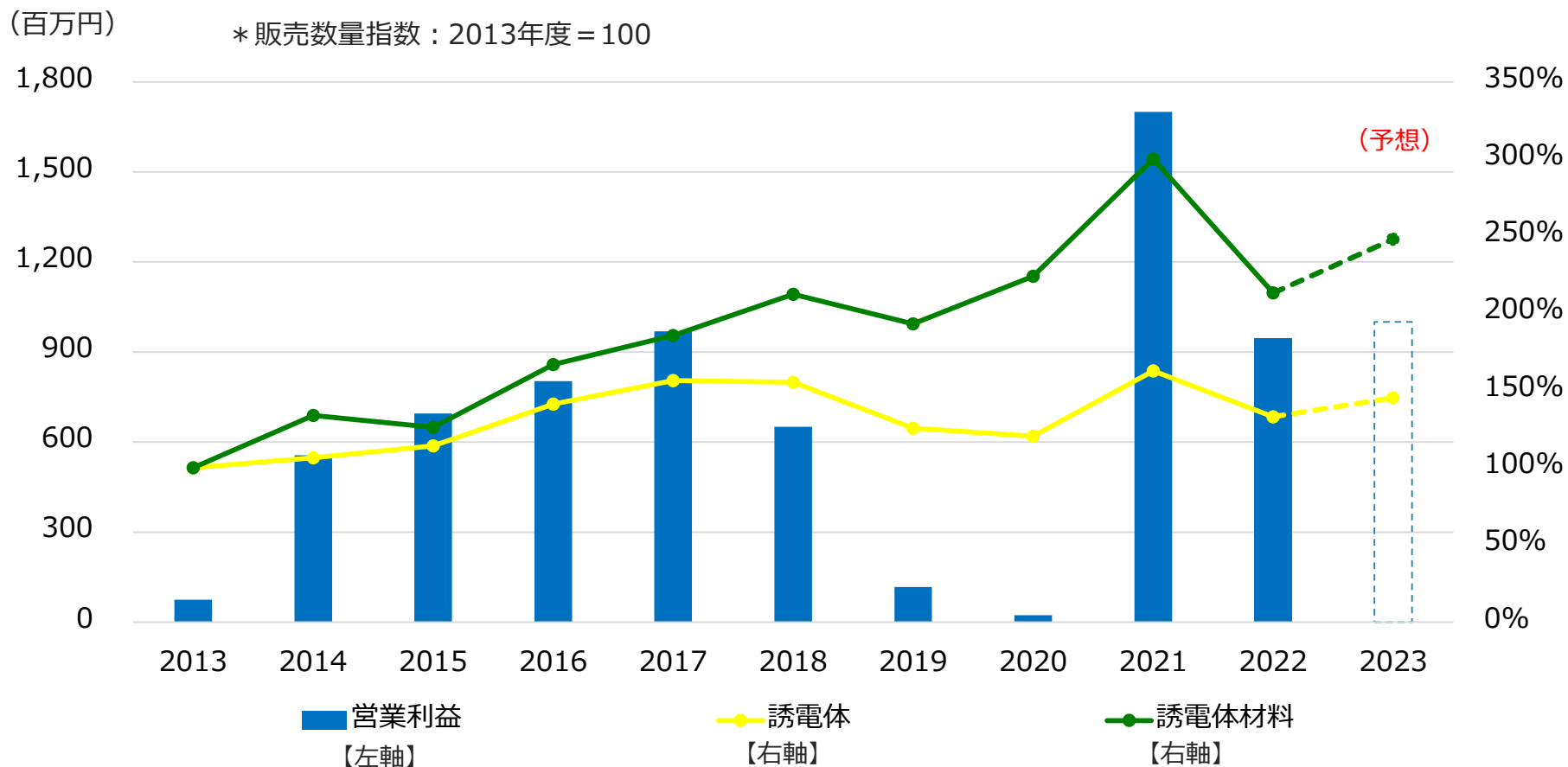


【出所】国内生産コンデンサ個数：JEITA
 (一般社団法人電子情報産業協会) 統計
 【市況データ年度：1月～12月】
 【当社販売数量データ年度：4月～3月】

	2018	2019	2020	2021	2022
市況 (億個)	10,608	9,280	12,579	14,260	11,404
当社販売数量指数 (*)	198.1	176.3	198.1	265.7	193.1
市況増減 (対前年同期比)				+13%	▲20%
当社増減 (対前年同期比) (指数対比)				+34%	▲27%

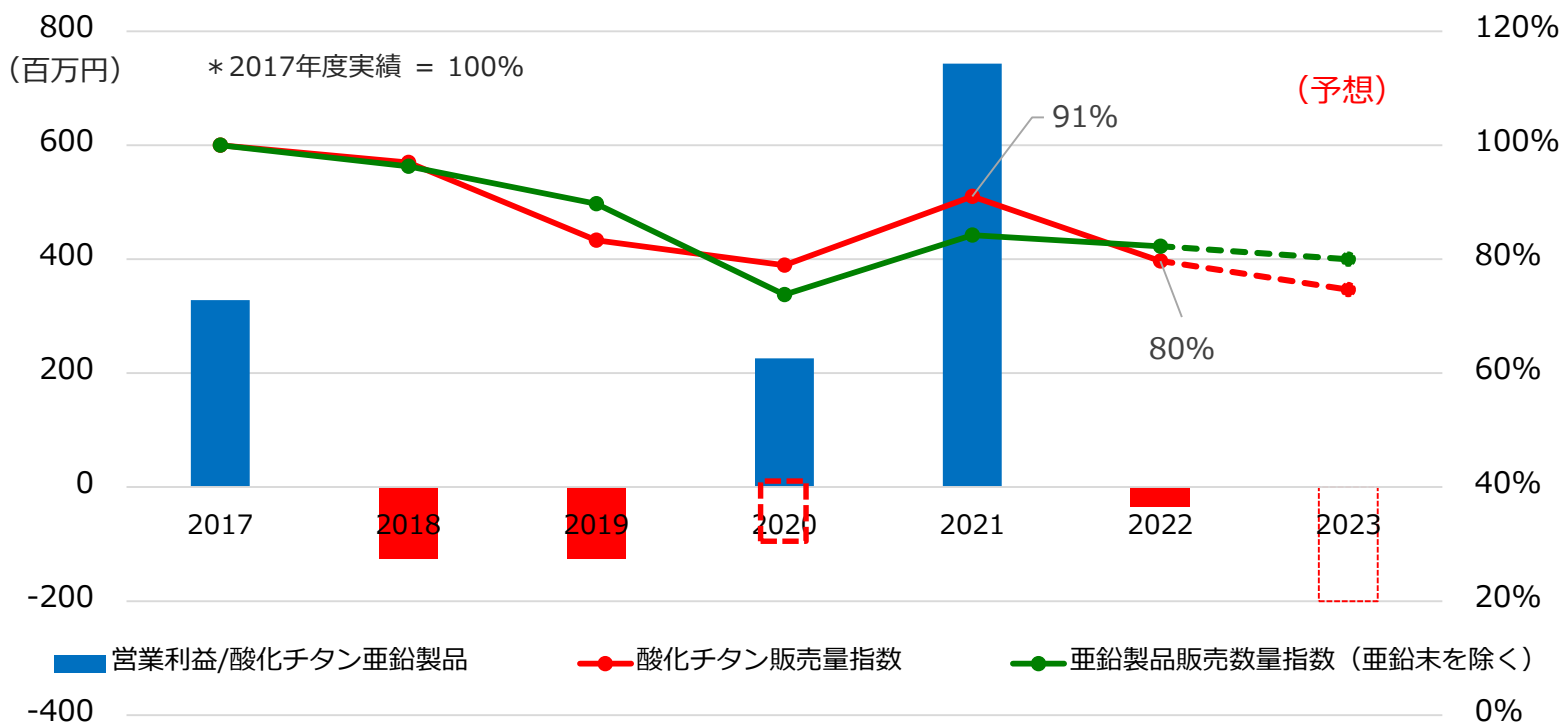
➤ サプライチェーンの混乱もあり、一時的に不規則な荷動きとなった。

【(*) 誘電体 + 誘電体材料の販売量指数 (2013年度 = 100)】



※ 2018年度～2020年度の営業利益が大きく低下した要因は、2021年度に払拭済み。
(2023年3月期 中間決算説明会資料をご参照ください。)

(化粧品材料を除く)

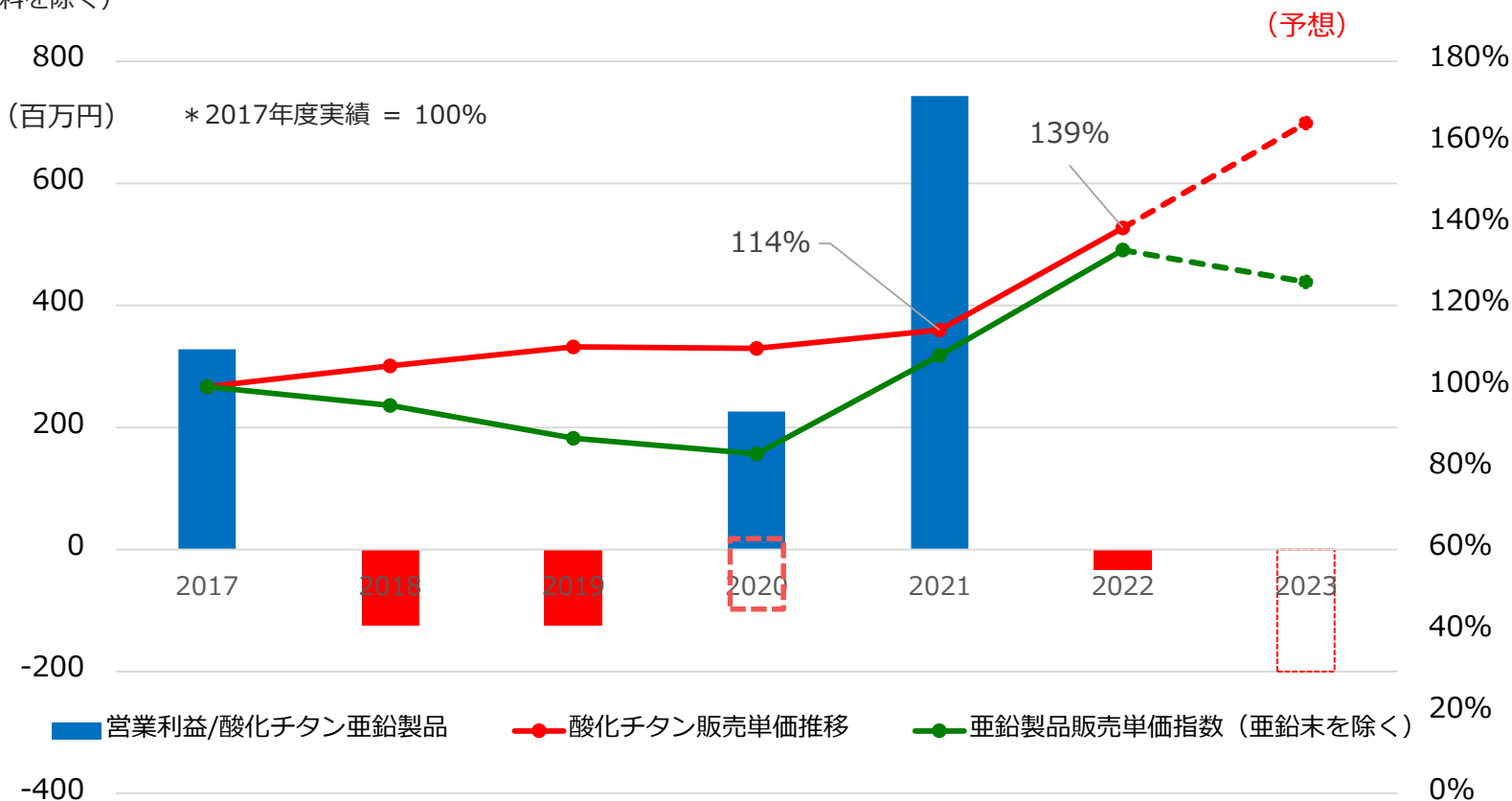


(* 2020年度は、コロナ禍による工場休止費用333百万円を営業外費用で計上。よって正味の営業利益は赤字である)

- 現状は、市況の増減による販売数量への影響が大きく、営業利益が増減しやすい。

グレードの統廃合を検討しながら、効率化を進めていく。

(化粧品材料を除く)



(* 2020年度は、コロナ禍による工場休止費用333百万円を営業外費用で計上。よって正味の営業利益は赤字である)

➤ 減産によるコストアップ・想定以上の原燃料価格の高騰により、収益が悪化。

継続的な価格是正を実施していく。

【樹脂添加剤】

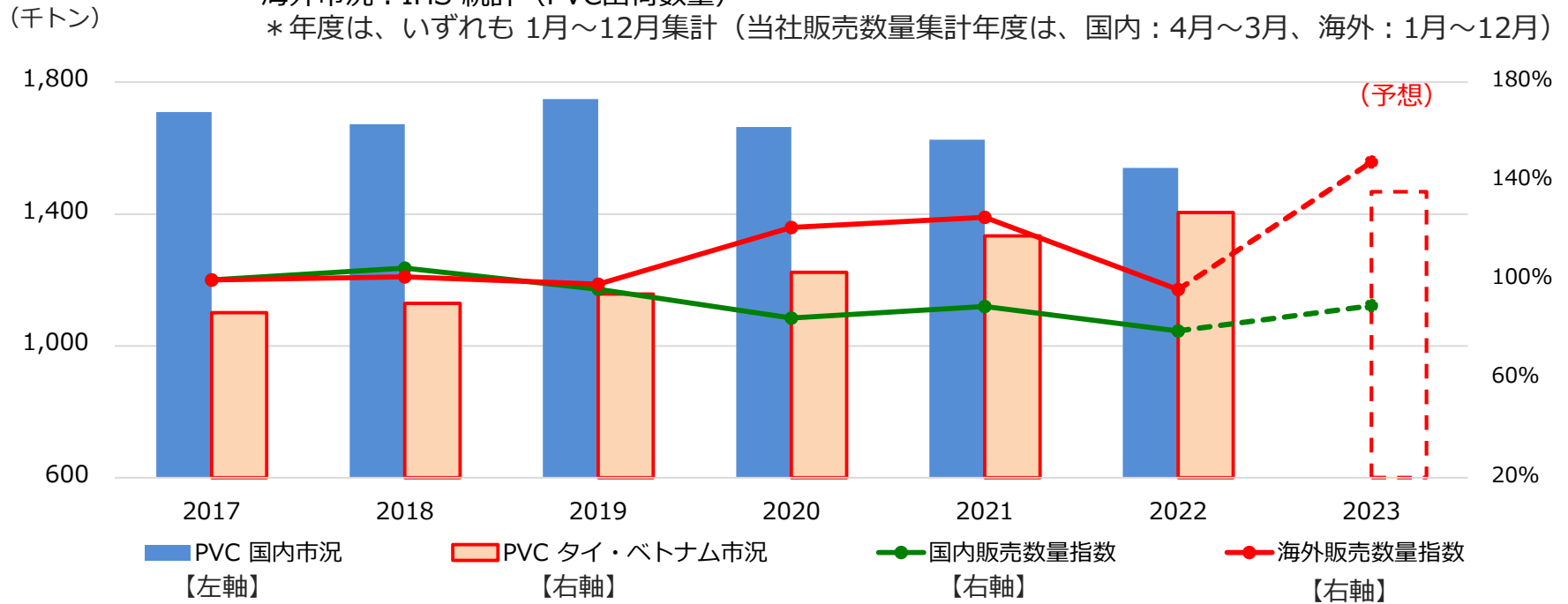
成長市場であるタイ・ベトナム市場を中心に、
PVC需要の成長曲線に合った販売増となるよう注力していく

【出所】 国内市況：経済産業省 化学工業統計（PVC出荷数量）

* 2017年度販売数量 = 100%

海外市況：IHS 統計（PVC出荷数量）

* 年度は、いずれも 1月～12月集計（当社販売数量集計年度は、国内：4月～3月、海外：1月～12月）



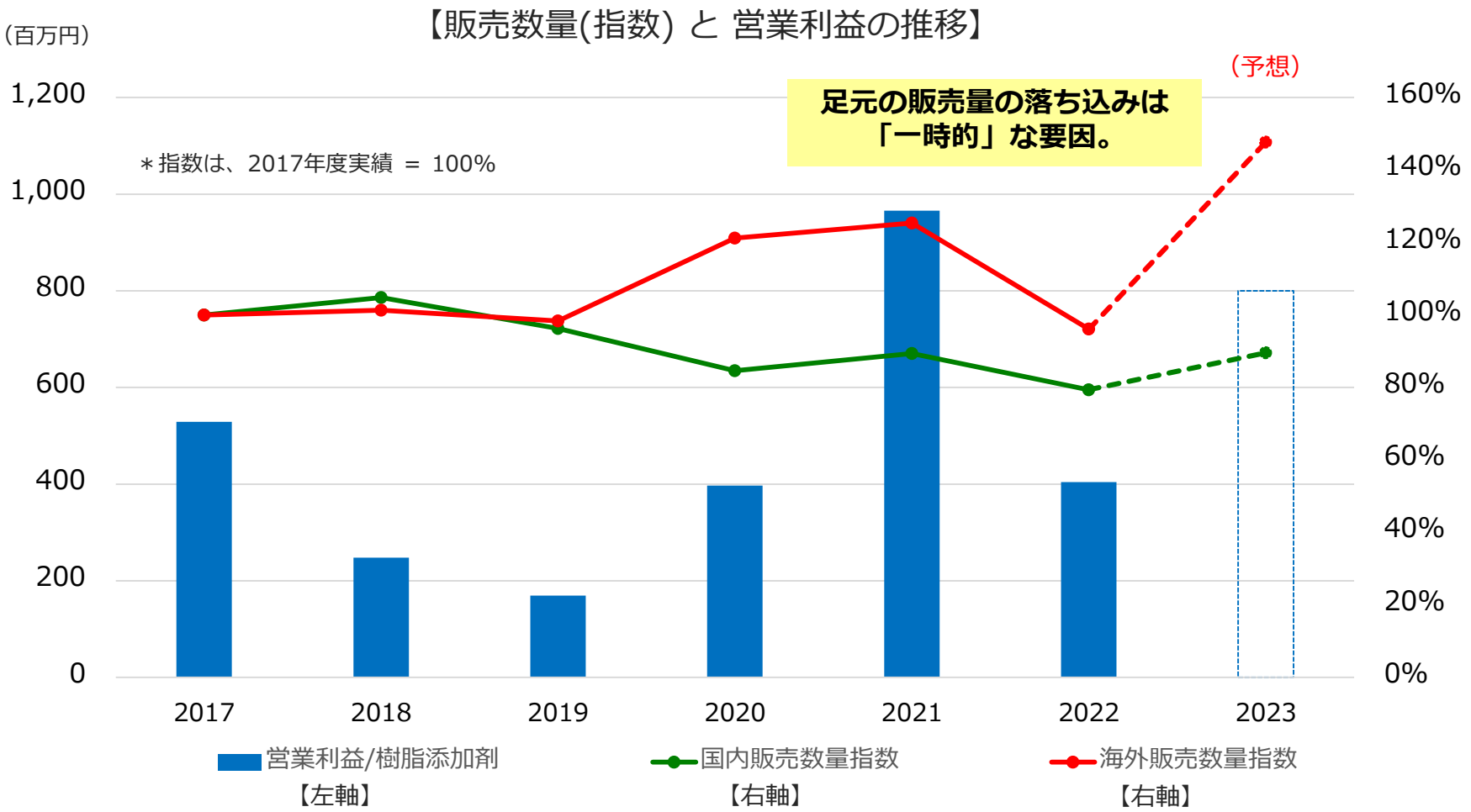
- タイ・ベトナムを中心に、東南アジアでの灌漑用設備・インフラ整備需要の増加により、PVCの需要は中期的に拡大していく。
- 増減はあるが、中期的には、成長市場である海外での販売比率のさらなる引き上げを目指す。

	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
* 海外比率	32.6%	31.8%	33.1%	40.9%	40.4%	36.9%	44.4%

* タイ・ベトナム両現地子会社での、現地販売数量を元に試算

【予想】

【樹脂添加剤】 「拡大市場である海外での販売数量の増加」が営業利益の鍵を握る。



➤ 短期的な増減はあるが、国内販売をなるべく維持し、海外での販売数量を伸ばすことで、営業利益も増加。

2. トピックス

- IAパートナーズ株式会社との業務提携について
- 堺商事株式会社株式のTOBに関して

【現状からの脱却】と【今後の更なる成長】に向けて

- 2024年3月期が、現・中期経営計画の最終年度（5年目）
- 足元の経営課題（事業ポートフォリオの見直し）に取り組んでいく。

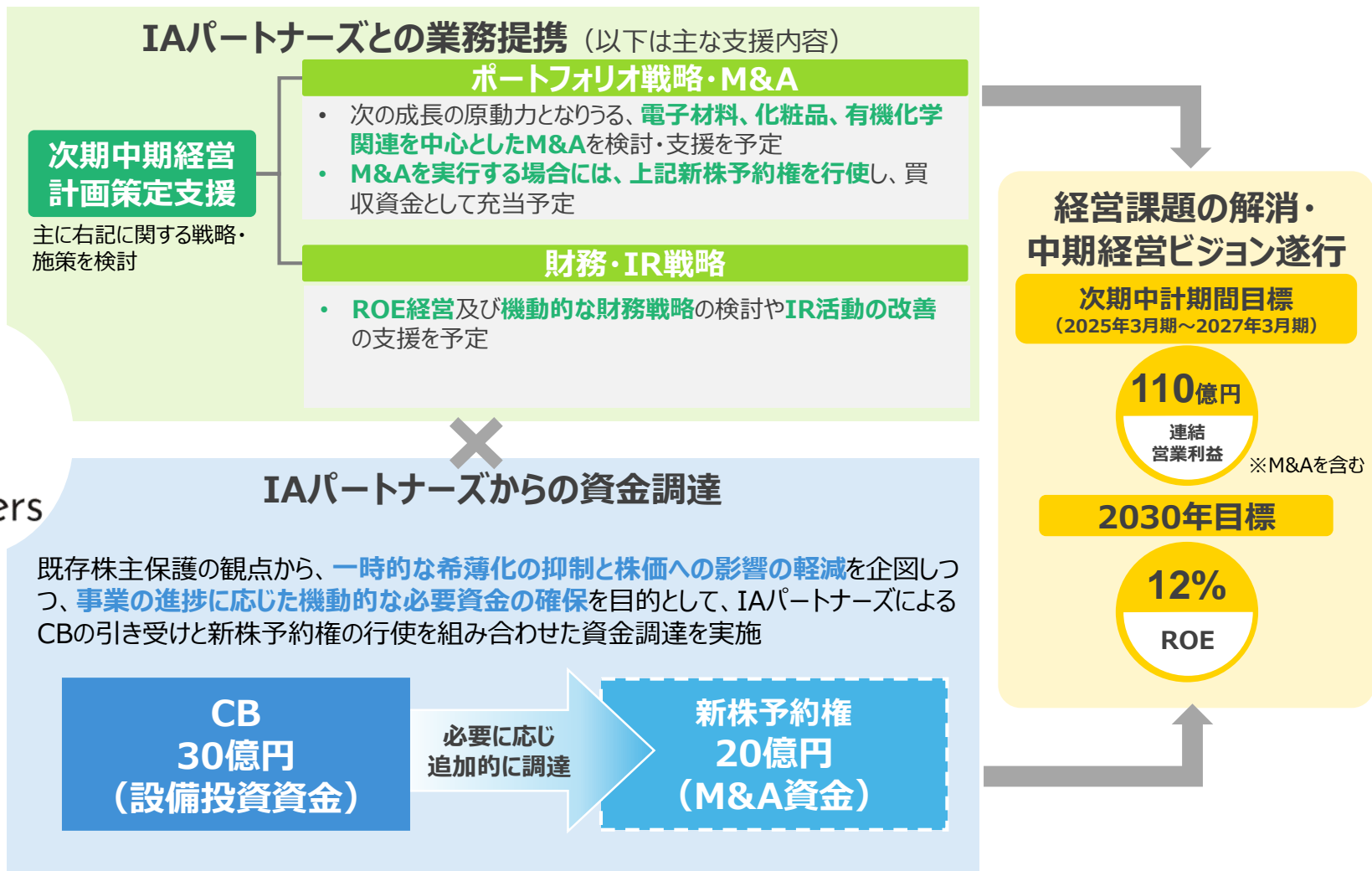
成長事業	経営資源を集中して、積極的な開発拡販
安定事業	安定した収益の稼得の継続
効率化検討事業	工場の集約・生産規模の縮小・大幅な採算是正

- **次期中期経営計画では、適宜M&Aも活用し、事業ポートフォリオの見直しを加速。**
- **2027年3月期に営業利益110億円、2030年3月期にはROE12%を目指す。**

ex) 成長事業への積極投資

- ・ 電子材料：EV/6Gと市場拡大していく半導体・コンデンサ市場での新規材料の拡販
- ・ 化粧品材料：日焼け止め材料以外への展開
- ・ 有機化学品：安定事業から「成長事業」へ飛躍
- ・ 触媒：カーボンニュートラルに資する触媒材料の開発（中長期的な取り組み） etc

IAパートナーズと業務提携を締結の上、新株予約権付社債(CB)と新株予約権の組合せによる資金調達を実施



*IAパートナーズは、2021年3月に設立されたプライベートエクイティファンドの管理・運営会社です

堺商事株式会社株式のTOBに関して

- 堺商事株式会社株式の非公開化に向けて、5月12日にリリースを実施した通り、TOBを実行中。
- 以下、堺商事の強みを存分に活用し、更なる成長に向けてシナジー効果を発揮していく。

堺商事の強み

期待されるシナジー効果

海外での豊富な販売チャネル

アジアを中心とした海外販売網のネットワーク強化

電子材料事業の原料調達と製品販売

成長事業である電子材料の原料調達から販売サービスまでのサプライチェーンの更なる強化

新規事業創発のためのフットワーク

新規顧客獲得や新規分野への参入。
より実効性のある堺化学グループ製品の販売体制の構築。

3. 2023年3月期本決算概要・セグメント別結果

2023年3月期中間決算業績概要（対前年同期）

（百万円）

	2022.03		2023.03		増 減	
		売上高比		売上高比		
売上高	80,135	—	83,861	—	3,725	4.6%
営業利益	7,494	9.4%	4,407	5.3%	▲ 3,086	▲41.2%
経常利益	8,840	11.0%	4,854	5.8%	▲ 3,985	▲45.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,747	8.4%	2,344	2.8%	▲ 4,402	▲65.2%

◆増収要因

価格改定の浸透により、増収。（酸化チタンや樹脂添加剤製品が中心）

◆減益要因

特に下期以降、電子材料事業の急ブレーキや、酸化チタン・樹脂添加剤事業の不振によって販売数量が落ち込み、生産調整による製造コストの上昇が影響した。
原燃料・原材料価格の高騰は値上げでカバーした。

◆補足

繰延税金資産の取り崩し（1,049百万円）を実施したため、当期純利益は大きく減少した。

事業別売上高・営業利益（対前年同期比）

		2022.03	2023.03	増 減	
化学事業	売上高	72,243	75,992	3,749	5.2%
	営業利益	9,190	6,372	▲ 2,818	▲30.7%
医療事業	売上高	7,892	7,868	▲ 24	▲0.3%
	営業利益	418	272	▲ 146	▲34.9%
全社費用	売上高	—	—	—	—
	本社部門費	▲ 2,114	▲ 2,236	▲122	—
合計	売上高	80,135	83,861	3,725	4.6%
	営業利益	7,494	4,407	▲ 3,086	▲41.2%

(百万円)

◆化学事業:増収減益

値上げにより、原燃料・原材料価格の高騰の影響はカバーしたものの、電子材料や酸化チタン、樹脂添加剤での販売数量が大きく減少した影響で減益となった。

◆医療事業:減収減益

コロナ以降、健診需要が低迷しており主力バリウム造影剤事業が依然低迷し、薬価切り下げ影響もあり、減収減益となった。

貸借対照表：棚卸資産が大幅に増加した

連結貸借対照表	2022.3	2023.3	増減
流動資産	65,496	72,101	6,605
現預金	10,800	12,409	1,609
棚卸資産	23,110	30,125	7,015
固定資産	58,423	55,920	▲ 2,503
有形固定資産	48,134	46,761	▲ 1,373
無形固定資産	1,519	1,368	▲ 151
投資その他の資産	8,769	7,791	▲ 978
資産合計	123,919	128,021	4,102
流動負債	26,771	29,237	2,466
固定負債	14,439	14,066	▲ 373
負債合計	41,211	43,304	2,093
純資産	82,708	84,717	2,009
負債・純資産	123,919	128,021	4,102
自己資本比率(%)	63.6	62.9	▲ 0.7
有利子負債（合計）	16,959	21,642	4,683

- 大部分が単価アップによる影響
- 単価影響を除くと、主に原材料在庫数量が増加した影響が大きい。
(約1,400百万円)

→サプライチェーンの混乱を避け、安定した生産活動への対策として原材料を購入した結果による。

- 運転資金を賄うために、借入れを実行

キャッシュフロー：営業CFが大きく減少した

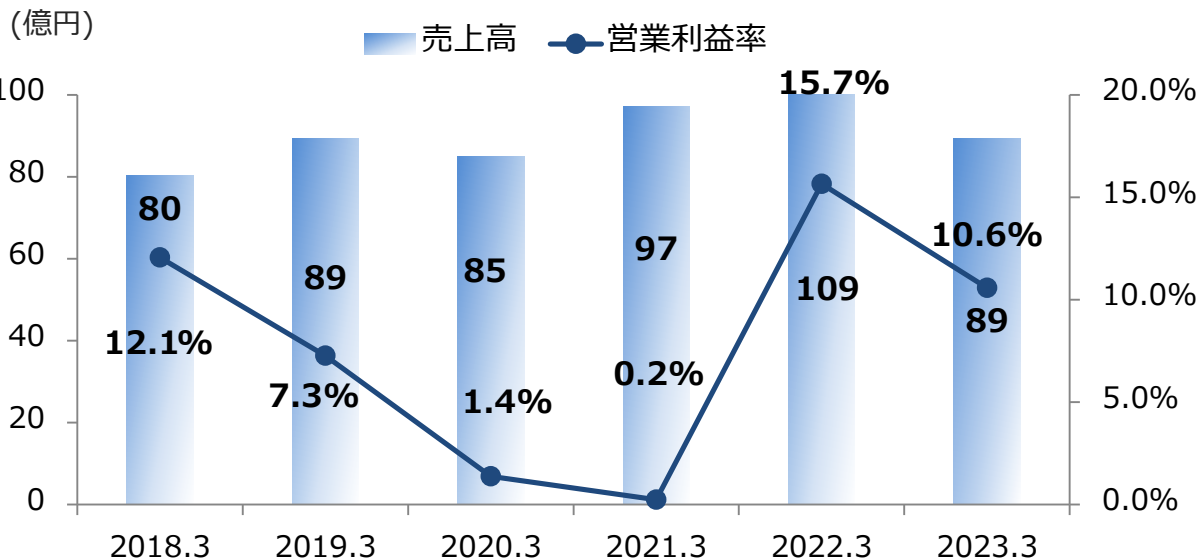
	2022.3	2023.3	増減
期首現金残高	11,153	10,549	▲ 604
税前利益	9,223	4,977	▲ 4,246
減価償却	4,333	4,417	84
棚卸資産	▲ 2,168	▲ 6,833	▲ 4,665
その他	▲ 4,821	▲ 1,788	3,033
営業CF	6,567	773	▲ 5,794
設備投資	▲ 5,064	▲ 2,658	2,406
株式売却	3,591	193	▲ 3,398
その他	▲ 181	▲ 155	26
投資CF	▲ 1,654	▲ 2,620	▲ 966
FCF	4,913	▲ 1,847	▲ 6,760
財務CF	▲ 5,654	3,284	8,938
期末現金残高	10,549	12,188	1,639

(FCF = 営業CF + 投資CF)

➤ 販売の不振と棚卸資産の増加で、営業CFが大きく減少。

➤ 長期借入金：2,000百万円
短期借入金：5,669百万円
の実行により、大きく増加。

電子材料



● 前年同期比較 (百万円)

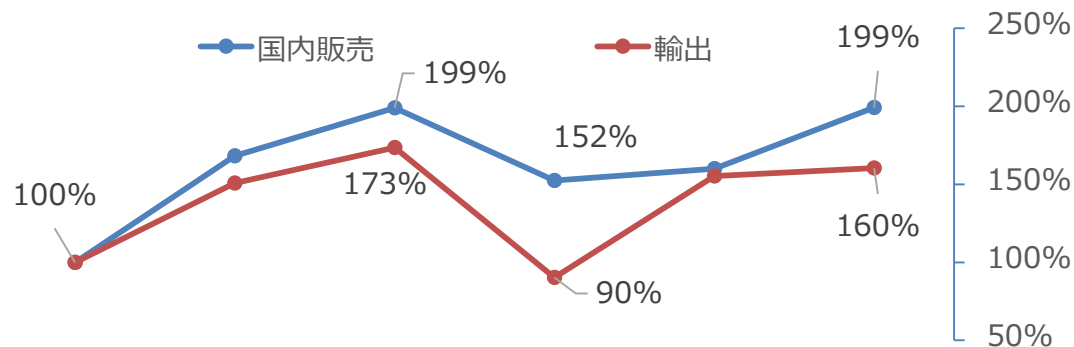
	2022.3	2023.3	増 減	
売上高	10,857	8,939	▲ 1918	▲ 17.7%
営業利益	1,700	946	▲ 754	▲ 44.4%

2023年3月期本決算のポイント

- 出荷数量が減少した。(▲26.9%)
中国ロックダウンや、パソコン・携帯電話などの民生用機器の市場の鈍化などにより出荷量が減少。誘電体（チタン酸バリウム）・誘電体材料（高純度炭酸バリウム）ともに、低迷した。
- 誘電体ハイエンド品は、概ね堅調に推移した。

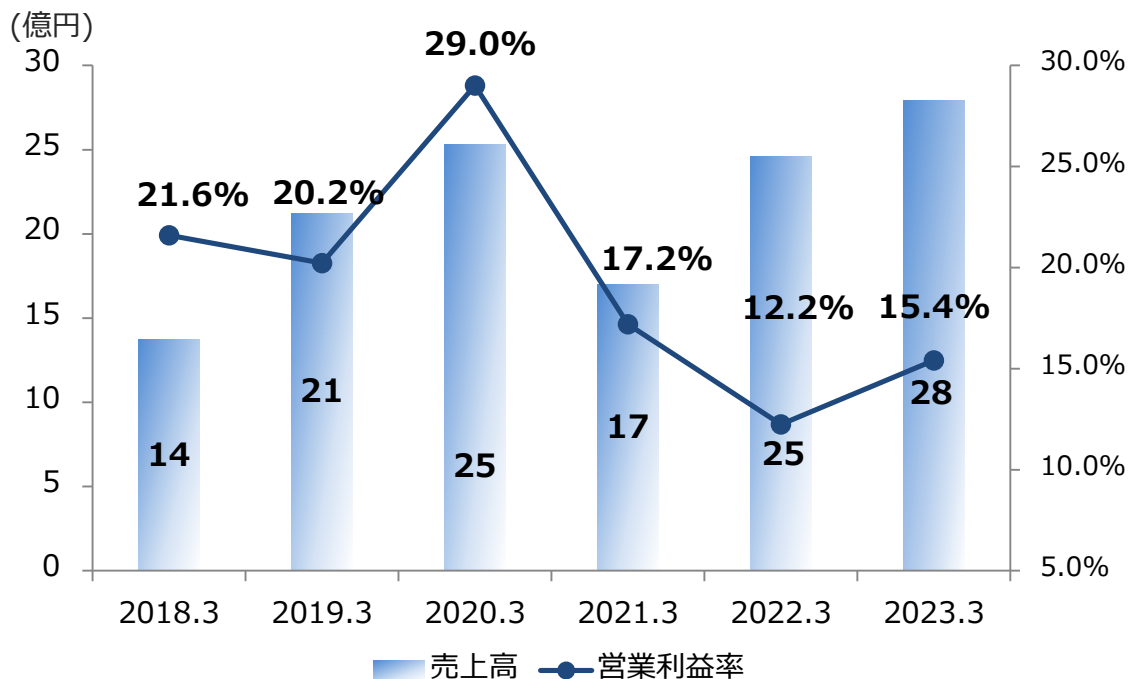
化粧品材料

(* 2018.3期 の出荷数量を100とした、国内外の販売数量推移)



2023年3月期本決算のポイント

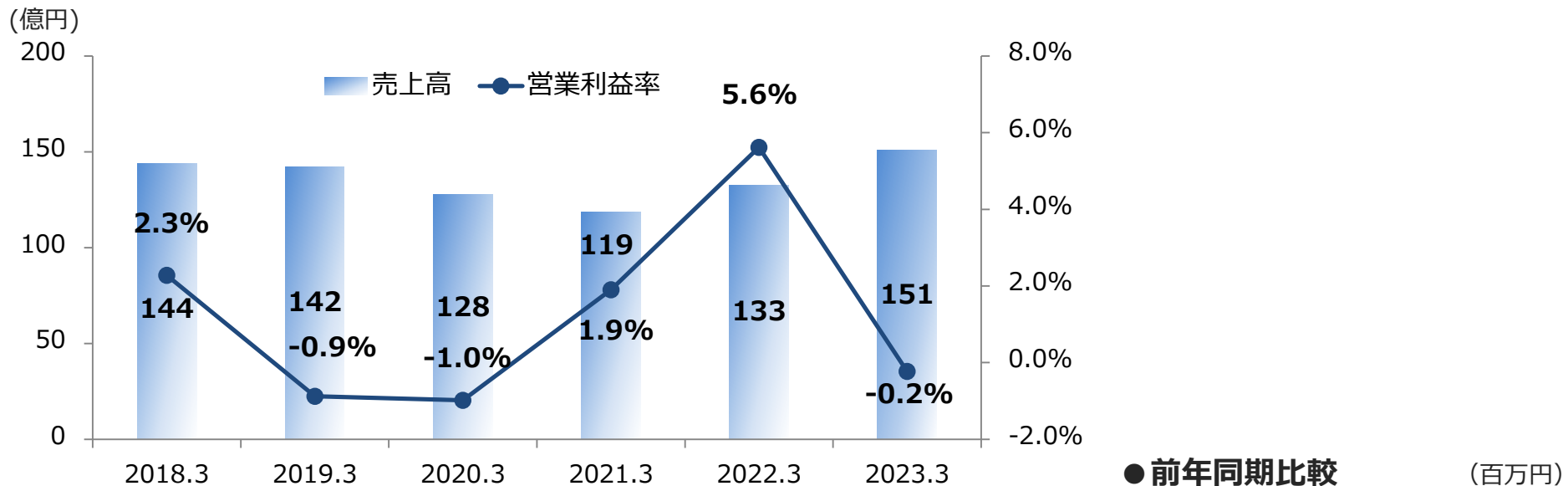
- 国内中心に、外出頻度も増加したことで需要の回復が見られ、増収増益となった。
- 販売数量としては、対前年同期比で、+14.9%。



● 前年同期比較

(百万円)

	2022.3	2023.3	増減	
売上高	2,460	2,790	330	13.4%
営業利益	301	430	129	42.9%



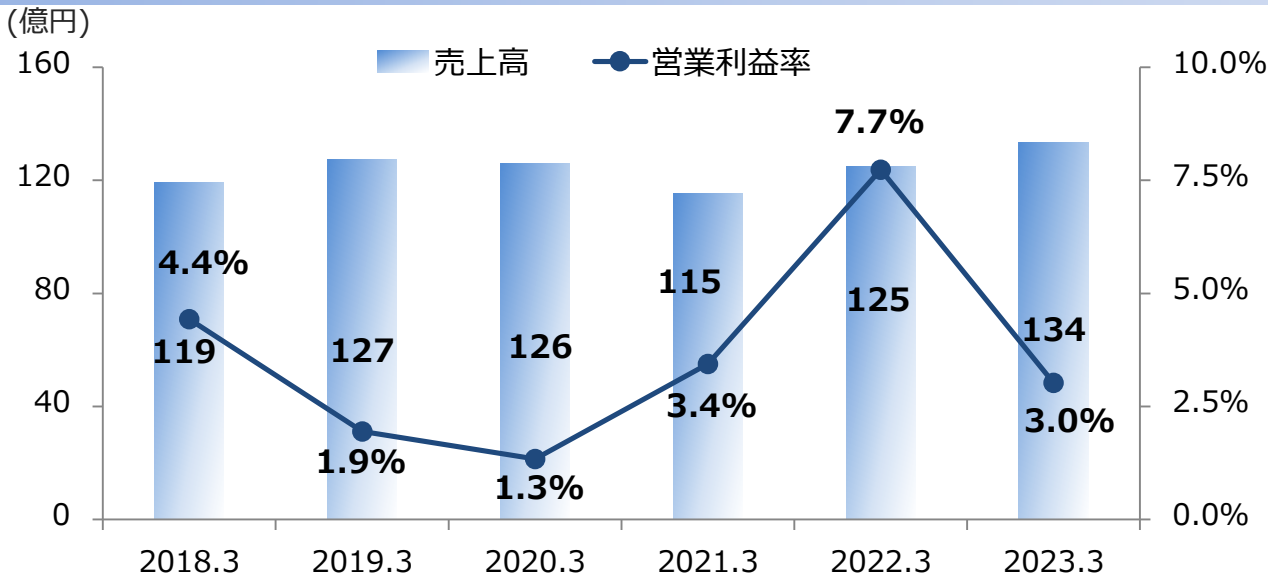
●前年同期比較 (百万円)

	2022.3	2023.3	増減	
売上高	13,258	15,068	1,810	13.7%
営業利益	745	▲34	▲779	▲104.6%

2023年3月期本決算のポイント

- 酸化チタン：価格改定の浸透で増収も、市況の落ち込みで販売数量が下期以降大きく落ちこみ、また操業度調整で製品在庫圧縮を図ったことから、製造コストアップとなり、減益となった。
- 亜鉛製品：販売数量はやや落ちだが、堅調な需要と亜鉛相場が高値推移し、採算是正も実施したことから、増収増益となった。

樹脂添加剤

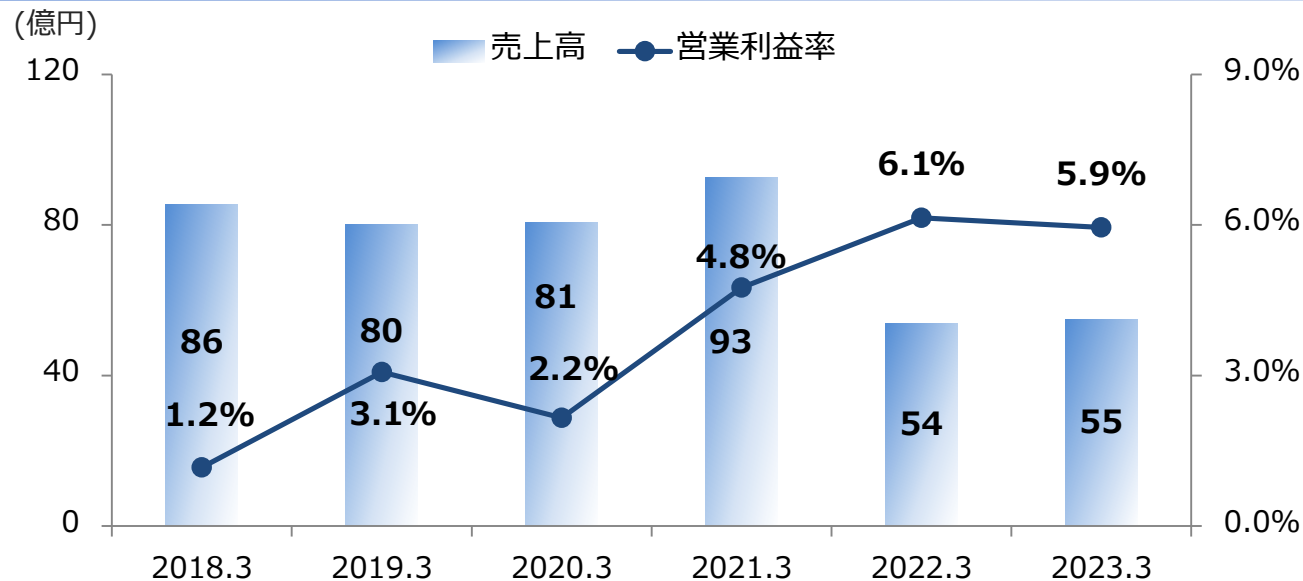


● 前年同期比較 (百万円)

	2022.3	2023.3	増 減	
売上高	12,489	13,354	865	6.9%
営業利益	966	404	▲ 562	▲ 58.2%

2023年3月期本決算のポイント

- 国内向けは、価格改定の実施による増収となった。下期以降は、半導体設備向け工業板の荷動きが悪くなるなど、PVC関連需要が低迷し減益となった。
- 海外向けは、タイ国内でインフラ整備に関わる灌漑用設備向け予算の縮減によって公共工事が減少し、非鉛安定剤が低調に推移し、減益となった。



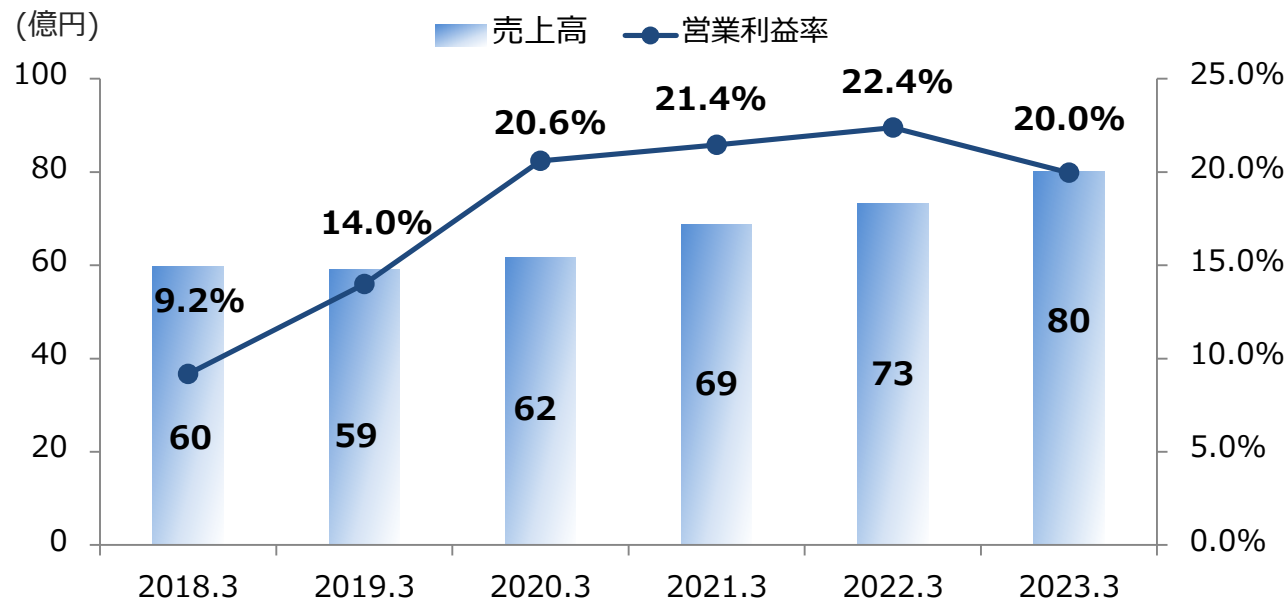
● 前年同期比較

(百万円)

	2022.3	2023.3	増 減	
売上高	5,388	5,496	108	2.0%
営業利益	331	327	▲ 4	▲ 1.2%

2023年3月期本決算のポイント

- 販売面は、市場が堅調に推移し増収となった。
- 上期は原燃料高とインドネシア現地法人の輸出運賃の高騰により、営業利益率が低下していたが、下期以降は解消され、概ね去年並みの営業利益となった。



● 前年同期比較

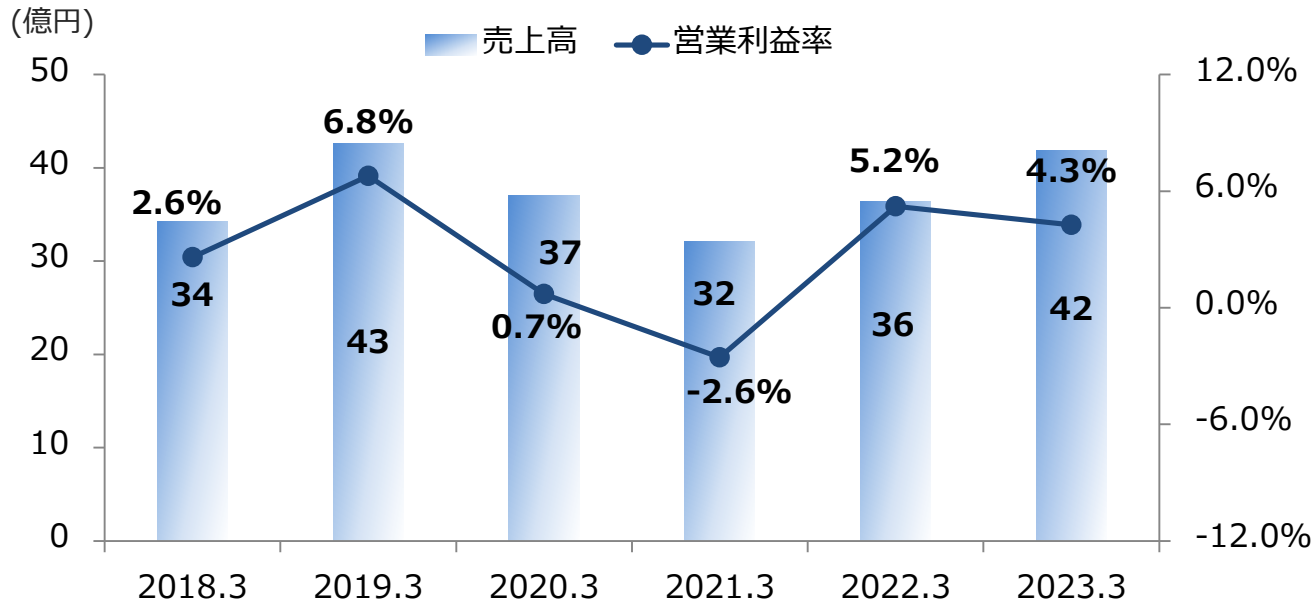
(百万円)

	2022.3	2023.3	増 減	
売上高	7,321	8,014	693	9.5%
営業利益	1,639	1,600	▲ 39	▲ 2.4%

2023年3月期本決算のポイント

- 医薬品原薬中間体は、医薬品中間体の出荷数量が増加したため、増収増益となった。
- チオ製品は、プラスチックレンズ向けが好調に推移し、価格改定も実施したため増収となった。しかし、原燃料高の影響はさけられず、減益となった。

触 媒



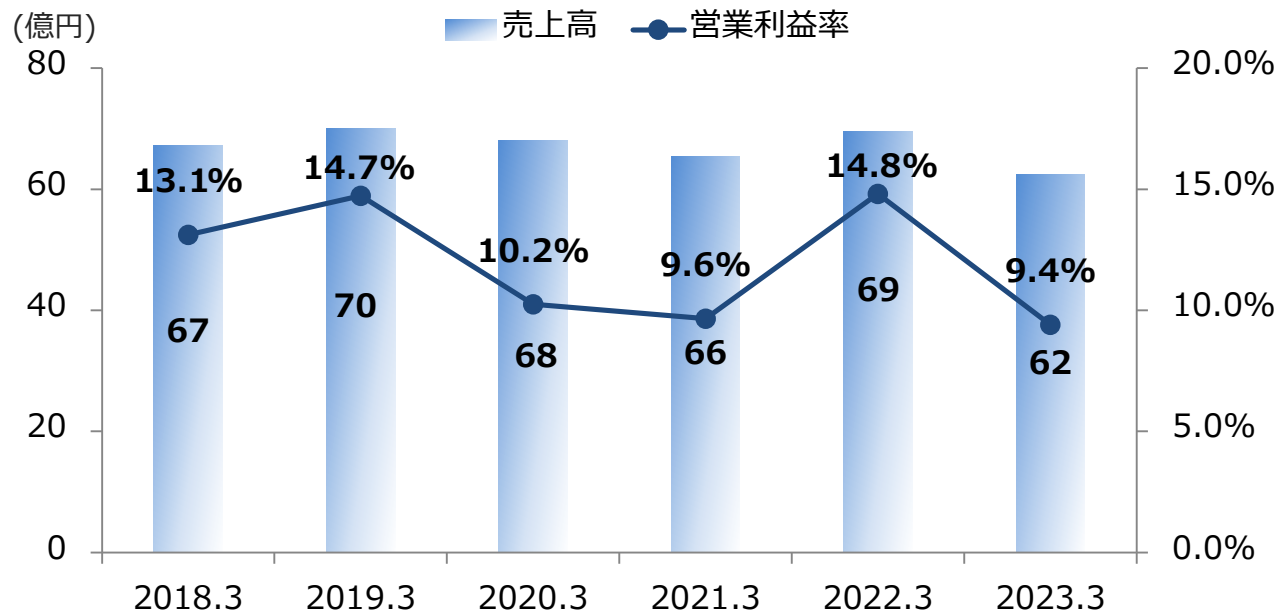
● 前年同期比較 (百万円)

	2022.3	2023.3	増 減	
売上高	3,644	4,139	549	15.1%
営業利益	190	179	▲11	▲5.8%

2023年3月期本決算のポイント

- 樹脂の水素添加工程などで使用されるニッケル触媒は、原料ニッケル価格の高騰と価格改定により、増収となった。
- 火力発電所やごみ焼却施設で使用される脱硝触媒は、前期通期で業績に貢献した海外向け大型物件の出荷が当期は上期だけの業績寄与となり、減収減益となった。

受託加工



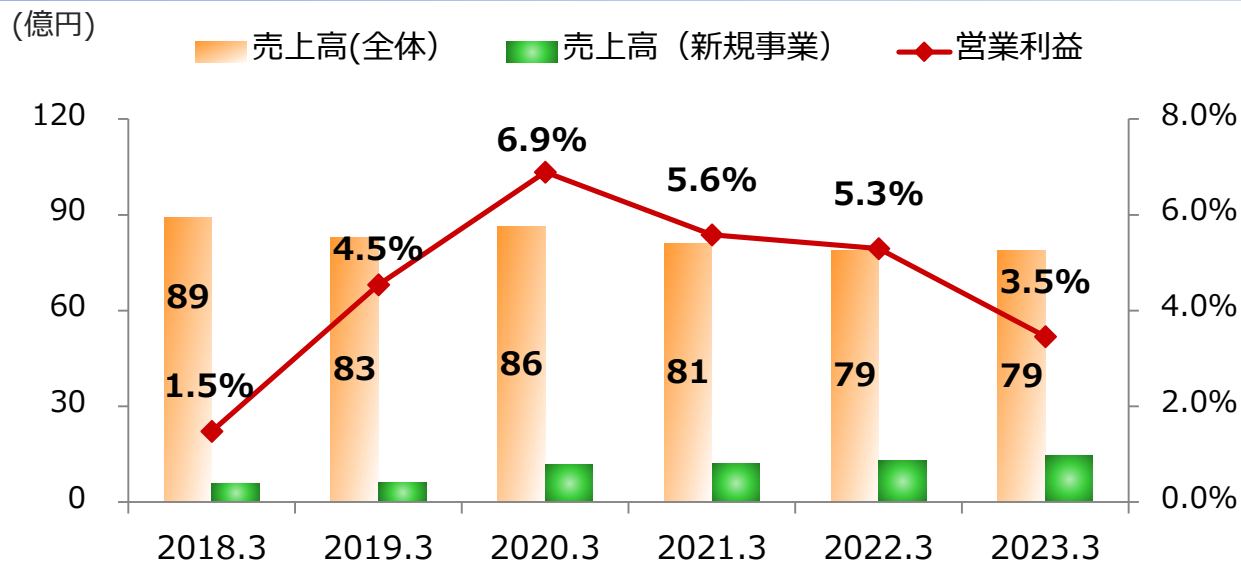
●前年同期比較

(百万円)

	2022.3	2023.3	増 減	
売上高	6,947	6,244	▲ 703	▲ 10.1%
営業利益	1,029	587	▲ 442	▲ 43.0%

2023年3月期本決算のポイント

- 加工顔料は、中国ロックダウンの影響や、前期に比べ自動車関連を中心に低調に推移し、減収減益となった。
- 焼成、混合、乾燥等の工程受託は、収益性の高い受託品が今期は低調となり営業利益率も低下し、減収減益となった。



● 前年同期比較 (百万円)

	2022.3	2023.3	増 減	
売上高	7,892	7,868	▲24	▲0.3%
営業利益	418	272	▲146	▲34.9%

2023年3月期本決算のポイント

- バリウム造影剤は、コロナ禍以降健診需要がもどらず、減収減益となった。
- 「アルロイドG」は、薬価引き下げの影響と販売数量の減少で、減収減益となった。
- 医療機器は、内視鏡洗浄消毒器が半導体不足の影響で販売台数が減少したが、電解促進剤などの機器関連製品の価格改定実施により、増収となった。
- かぜ薬「改源」など一般用医薬品は、外国人による大量購入の影響もあり増収となった。
- 新規事業として注力中の美容医療機関向け製品（紫外線サプリメント）が好調に推移し、増収増益となった。

4. 2024年3月期業績予想

2024年3月期業績予想

金額単位：百万円

	2023.3		2024.3					
	通期実績		上期予想		下期予想		通期予想	
		売上高比		売上高比		売上高比		対前期比
売上高	83,861	—	43,000	—	48,000	—	91,000	8.5%
営業利益	4,407	5.3%	1,200	2.8%	3,300	6.9%	4,500	2.1%
経常利益	4,854	5.8%	1,200	2.8%	3,300	6.9%	4,500	▲7.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,344	2.8%	400	0.9%	3,200	6.7%	3,600	53.6%

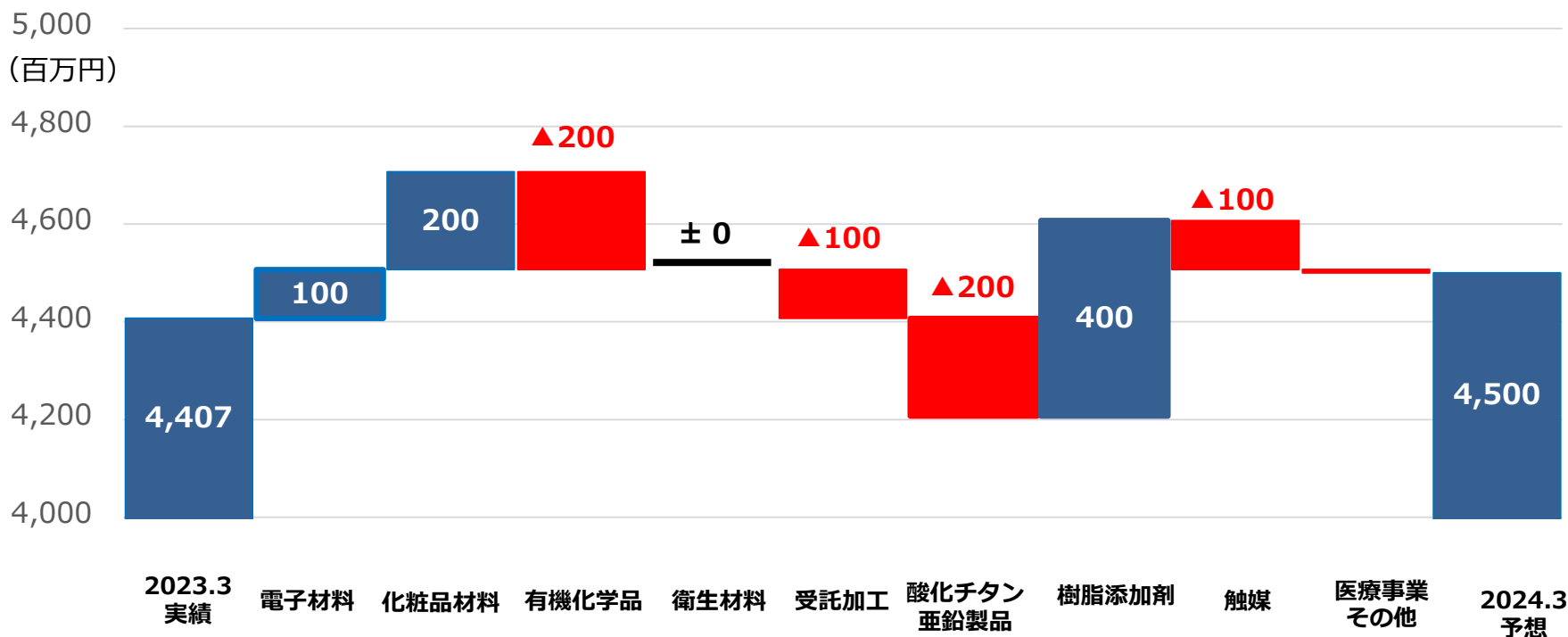
【補足】

金額単位：百万円

2022.3期		2023.3期		2024.3期	
上	下	上	下	上	下
4,356	3,138	3,267	1,140	1,200	3,300
約7,500		約4,500		4,500	
Total : 12,000 = 6,000 × 2年度				(予想)	

- 2022.3期に、電子材料を中心に在庫過剰となったため、2023.3期はその反動で、調整期間となった。
- 6,000百万円/年の営業利益水準は維持できている

サブセグメント別営業利益増減見通し（概算値）



プラス要素

- 電子材料の需要の回復は、下期以降の見込み。
- 化粧品材料は、順調に販売数量を伸ばす見通し。
- 樹脂添加剤は、海外での販売が回復する見込み。

マイナス要素

- 酸化チタン・亜鉛製品は、販売価格の向上に努めるも、販売数量の低迷が響く。

設備投資・減価償却・研究開発費推移・予想

金額単位：百万円

	2019.3	2020.3	2021.3	2022.3	2023.3	2024.3
設備投資	6,891	8,403	9,567	5,967	2,658	3,500
減価償却費	3,189	3,686	4,243	4,331	4,417	4,500
研究開発費	2,951	2,898	2,487	2,376	2,674	3,000

(予想)

・設備投資

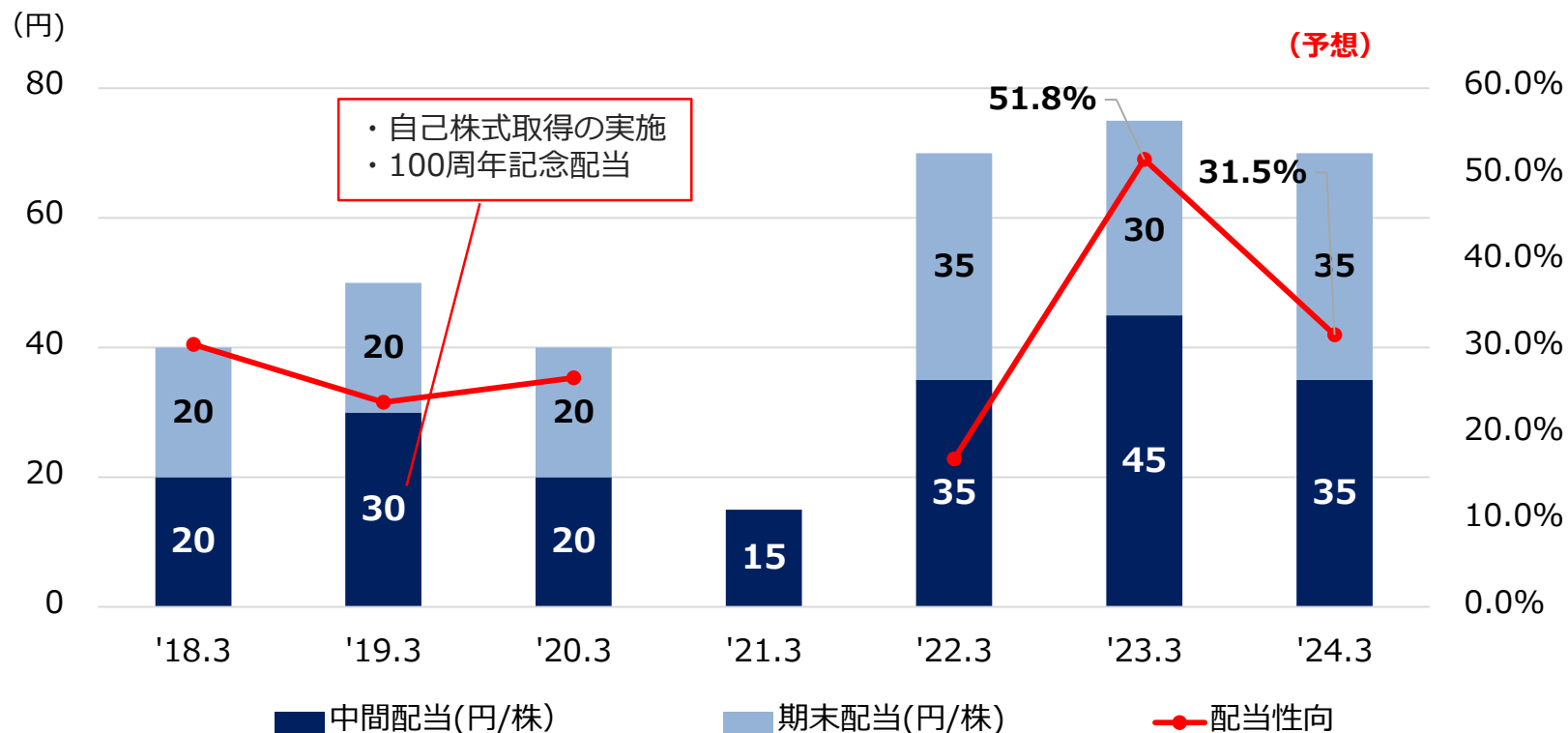
現中計前半で実施したほどの大型投資はないが、必要な成長投資を実行していく予定。

・研究開発費

パイロットスケール品の早期製造移管や、医薬原薬中間体のCDMO化に向けた取り組みを加速させるため、スタッフの補充や教育に資金を投じていく。

5. 株主還元

株主還元



【剰余金の配当の基本方針】

配当性向**30%以上**を目安に利益還元を実施（2回／年）

【2024年3月期について】

1株当たり**年間70円（中間35円、期末35円）**の配当を実施（見込）

質 疑 応 答

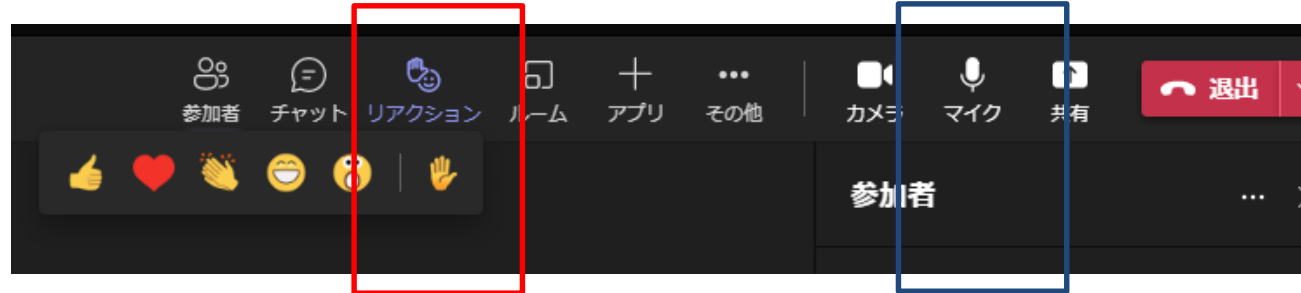
■ 質疑応答の順番

① 会場にお越しの皆様 → ② WEBでご参加の皆様

* 恐れ入りますが、WEBでご参加の皆様は、①での質疑終了までお待ち願います。

* 会場の時間の関係上、WEBからのご質問をお受けできない可能性がありますこと、予めご了承ください。

■ WEBからの質疑方法



- ご質問のある方は画面上の「**リアクション**」から挙手をお願いします。
- 同時に複数の方が手を挙げられた場合には、順番にご案内します（手を挙げるボタンは押したままにしてください）。
- ご質問者は事務局より**マイクミュート**を解除しますので、ご発言を開始してください。（※その際お名前をお呼びすることになります。当社HPに公開する書起しではお名前を伏せますが、アナリスト協会様での公開分では、お名前は公開されます。その旨、ご了承ください。）
- 質疑応答が終わりましたら同じ「**リアクション**」機能から手をおろし、また**マイク**をオフにしてください。

参 考 資 料

- 当社概要
- 事業紹介
- 業績推移等



堺化学工業(株) 会社概要

本 社	堺市堺区戎島町5丁2番地
代 表 者	代表取締役社長 矢倉 敏行
創 業	1918年6月
事業内容	無機化学工業製品、有機化学品、医薬品の 開発・製造・販売
総 資 産	128,021百万円
純 資 産	84,717百万円
関係会社	連結子会社16社（国内8社、海外8社）
従業員数	連結2,013名／単体769名（2023年3月末現在）

当社グループについて

化 学【製造・販売】

堺化学工業(株)

大崎工業(株)

レジノカラー工業(株)

共同薬品(株)

SC有機化学(株)

日本カラー工業(株)

(株)片山製薬所

SAKAI CHEMICAL(VIETNAM) CO., LTD.

SIAM STABILIZERS AND CHEMICALS CO., LTD.

PT. S&S HYGIENE SOLUTION

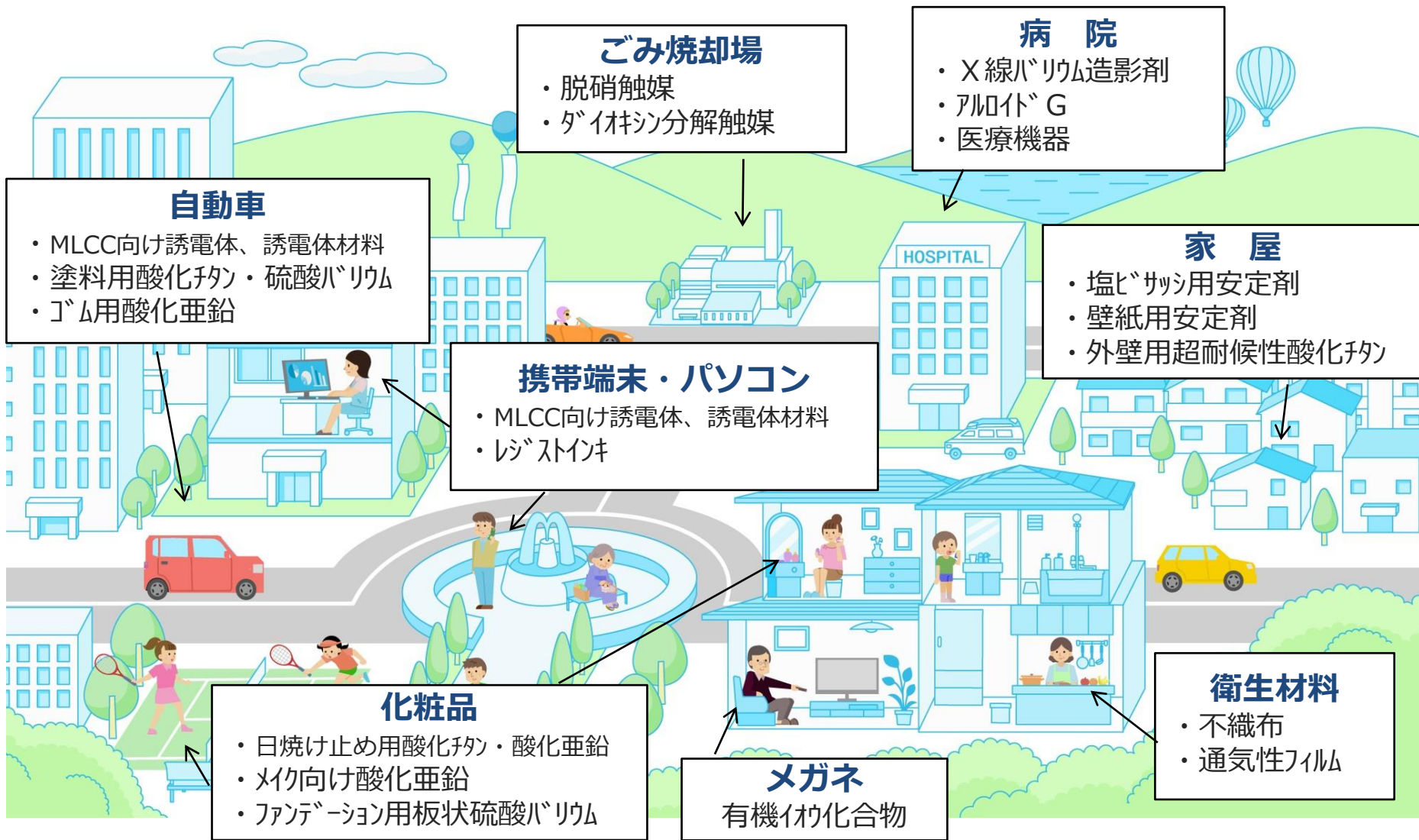
化 学【販 売】

堺商事(株)

医 療【製造・販売】

カイゲンファーマ(株)

暮らしに息づく当社グループ製品



事業内容と売上高構成

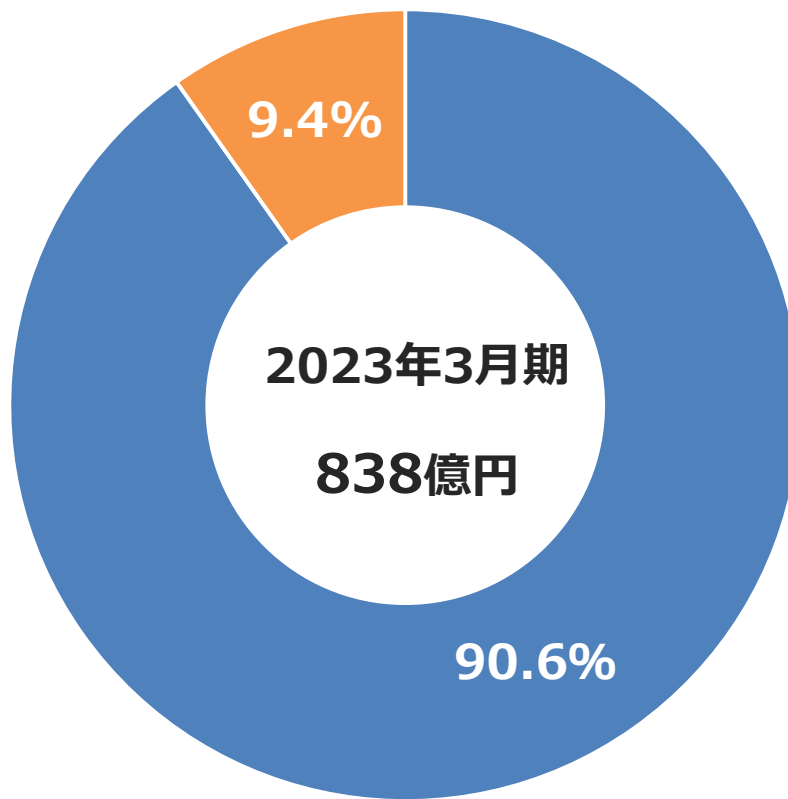
医療

バリウム製剤、アルギン酸ナトリウム製剤、医療機器、改源ブランドを柱として、医療用から一般向けまで幅広く医療と健康に貢献する製品・サービスを提供しています。



化学

天然鉍石から加工する技術や粉体をコントロールする技術などにより、さまざまな分野に素材を展開している主力事業です。

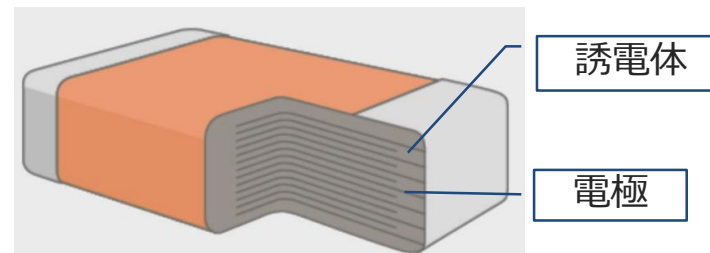


事業の紹介 <化学>

電子材料

積層セラミックコンデンサ

- ・誘電体 (チタン酸バリウム)
- ・誘電体材料 (高純度炭酸バリウム)



電子機器には欠かせない積層セラミックコンデンサのメイン材料。

誘電体は電気をたくさん貯める性質を持ちます。

当社は、微細で形が均一に揃った球状の誘電体を開発し、コンデンサの性能向上に貢献していきます。

こんなところに
使われています



事業の紹介 <化学>

酸化チタン・亜鉛製品

- ・酸化チタン…着色力、隠ぺい力、耐候性、化学的安定性に優れる白色顔料
- ・酸化亜鉛…ゴム製品の加硫促進助剤
- ・化粧品材料…高い紫外線遮蔽や滑らかな肌触りを実現

酸化チタンは、塗料やインキ、製紙、プラスチック、化学繊維などあらゆる分野に必要とされる素材です。

酸化チタン、酸化亜鉛ともに微細にすると紫外線遮蔽率が高まるため、日焼け止めやファンデーションにも活躍しています。

こんなところに
使われています



事業の紹介 <化学>

樹脂添加剤

パイプ、継手、窓枠、壁紙、ワイヤーハーネス

- ・塩ビ安定剤・非塩ビ安定剤
- ・ハトのけいふ ... 非鉛系塩ビ安定剤や
高い保温性と透明性から農業用フィルムに



塩ビ安定剤は、樹脂の加工性向上や劣化抑制などのために添加されます。現在、世界的に塩ビ安定剤の脱鉛化が進んでおり、非鉛系への切替えが加速しています。

ベトナム子会社では非鉛系安定剤およびその原料となるハイドロタルサイトを製造、タイ子会社では鉛系・非鉛系安定剤を製造し、いずれも東南アジアを中心に販売を拡大しています。

こんなところに
使われています



事業の紹介 <化学>

衛生材料

おむつ、生理用品

- ・ 通気性フィルム … 水分を留めて空気だけを通す

海外で需要が増加している中、インドネシア子会社では通気性フィルムを製造しています。

こんなところに
使われています



有機化学品

プラスチックレンズ、コンクリート、潤滑油、医薬品

- ・ 有機イオウ化合物 … メガネレンズの屈折率向上、
コンクリート混和剤としても
- ・ 有機リン化合物 … 潤滑油添加剤に
- ・ 医薬品原薬・中間体

こんなところに
使われています

有機イオウ化合物BMPAを国内で唯一製造しています。



事業の紹介 <化学>

触 媒

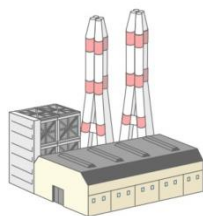
ごみ焼却場、火力発電所、マーガリン、接着剤、光学フィルム

- ・脱硝触媒 … 窒素酸化物を除去
- ・プロセス触媒(ニッケル触媒) … 油脂・樹脂の水素化など

ニッケル触媒は使用先の光学フィルムや紙おむつ接着剤の需要増加に伴い、事業を拡大を目指しています。



こんなところに
使われています



受託加工事業

無機・有機化学工業製品の受託製造

…顔料、着色剤、機能性インキ、触媒、樹脂添加剤など

さまざまな機械を取り揃え、幅広い分野に対応しています。



事業の紹介 <医療>



カイゲンファーマ(株)

X線バリウム造影剤

…消化管撮影



1931年に原料となる薬用硫酸バリウムの製造を開始。

定期検診でお馴染みのものですが、海外への輸出も行っています。

医療機器

・内視鏡用洗浄消毒器



バリウムから胃カメラ検診への移行に対応。

薬価改定の影響を受けない事業と位置付け、開発に注力しています。

アルロイドG

…消化性潰瘍・逆流性食道炎治療薬

胃・十二指腸潰瘍の止血や粘膜保護、逆流性食道炎における自覚症状を改善。



一般用医薬品

- ・「改源」シリーズ
- ・カイゲン顆粒
- ・カイゲンパックIB顆粒



「メイドインジャパン」品質で台湾市場への販売を開始。

化学事業の製品別売上高・営業利益推移

金額単位：百万円

		2018.3	2019.3	2020.3	2021.3	2022.3	2023.3
電子材料	売上高	8,033	8,948	8,499	9,723	10,857	8,939
	営業利益	969	651	117	23	1,700	946
酸化チタン・亜鉛製品	売上高	15,758	16,341	15,305	13,563	15,718	17,858
	営業利益	624	304	610	518	1,046	396
樹脂添加剤	売上高	11,934	12,745	12,583	11,543	12,489	13,354
	営業利益	529	248	169	397	966	404
衛生材料	売上高	8,558	8,006	8,070	9,254	5,388	5,496
	営業利益	100	246	174	440	331	327
有機化学品	売上高	5,979	5,919	6,172	6,882	7,321	8,014
	営業利益	548	828	1,271	1,476	1,639	1,600
触 媒	売上高	3,427	4,257	3,703	3,210	3,644	4,193
	営業利益	89	289	26	▲ 82	190	179
受託加工	売上高	6,721	7,000	6,811	6,550	6,947	6,244
	営業利益	882	1,031	698	632	1,029	587
その他	売上高	17,218	18,040	17,412	16,079	9,875	11,890
	営業利益	800	432	356	447	170	▲ 305
合 計	売上高	77,628	81,256	78,555	76,821	72,243	75,992
	営業利益	4,541	4,029	3,421	3,851	7,076	4,135

注：営業利益から本社部門費を差し引いた値です。

化学事業の四半期推移

金額単位：百万円

	2021.3				2022.3				2023.3			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	18,880	17,419	19,904	20,618	17,695	18,113	17,544	18,890	19,455	19,116	18,918	18,502
電子材料	2,261	2,264	2,542	2,655	2,660	2,426	3,144	2,627	2,685	2,271	1,984	1,998
酸化チタン・亜鉛製品	3,332	2,897	3,517	3,817	3,928	3,563	3,920	4,307	4,555	4,390	4,545	4,366
樹脂添加剤	2,765	2,551	3,066	3,162	3,090	3,118	3,148	3,132	3,281	3,430	3,291	3,350
衛生材料	2,337	2,411	2,200	2,306	1,283	1,223	1,503	1,379	1,225	1,426	1,458	1,385
有機化学品	2,162	1,300	1,584	1,837	2,250	2,171	1,089	1,810	2,172	2,211	1,496	2,133
触媒	645	837	1,033	695	661	824	961	1,197	910	1,151	981	1,150
受託加工	1,403	1,539	1,780	1,828	1,849	1,739	1,618	1,740	1,704	1,487	1,585	1,467
その他	3,975	3,621	4,182	4,318	1,974	3,046	2,160	2,698	2,919	2,747	3,574	2,649
営業利益	967	387	1,267	1,230	2,111	2,012	1,452	1,501	1,736	1,289	762	347

注：営業利益は本社部門費を差し引いた値です。

カイゲンファーマの製品別売上高推移

金額単位：百万円

	2018.3	2019.3	2020.3	2021.3	2022.3	2023.3
バリウム	2,327	2,265	2,291	2,043	2,173	1,882
アルロイドG	860	990	1,221	1,193	1,167	1,061
医療機器	2,290	2,373	2,445	2,453	2,611	2,635
一般用医薬品	1,463	1,190	1,144	1,026	812	853
その他	1,645	1,608	1,722	1,557	1,420	1,435
合計	8,585	8,426	8,823	8,272	8,185	8,139

ご清聴ありがとうございました。

本資料は、情報の提供を目的とし、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成したものであり、リスクや不確実性を含んでいるため、実際の業績はこれと異なる結果となる可能性があります。

また、2021年3月期以前の化学事業のサブセグメントの数値は任意で公表しているものであり、監査を受けておりませんので、参考値とご承知おきください。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に依存して投資判断されることにより生じうるいかなる損失に関して、当社は責任を負いません。